

カトリック六甲教会 教会報

2018

3

No.555

2018年四旬節教皇メッセージ

「不法がはびこるので、多くの人の愛が冷える」(マタイ 24・12)

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

復活祭がまた近づいてきました。神は摂理により、「わたしたちの回心の秘跡的しるし」である四旬節を、復活祭に備えるために毎年、与えてくださいます。四旬節は、生活のあらゆる側面で心の底から主に立ち帰るようわたしたちに呼びかけ、そのことを実現させます。

今年も、この恵みのときを喜びと真理のうちに過ごせるよう、このメッセージを通して、わたしは教会全体のために役立ちたいと思います。そのために、わたしはマタイによる福音書に記されたイエスのことばの導きに身をゆだねます。「不法がはびこるので、多くの人の愛が冷える」(マタイ 24・12)。

このことばは、終末に関するキリストの説教の中に表れます。それは主の受難が始まる場であるエルサレムのオリーブ山で告げられました。イエスは弟子たちの質問に答え、大きな災いを予告し、信者の共同体に起こりうる状況を描きます。痛ましい出来事を前にして、偽預言者たちが多くの人を惑わし、福音全体の中心である愛が人々の心から消える恐れがあります。

偽預言者

この箇所を耳を傾け、自分自身に問いかけましょう。偽預言者はどんな姿をしているのでしょうか。

彼らは、人々を奴隷にして思い通りに動かすために、人間の感情を操る「蛇使い」のようです。どれほど多くの神の子が、一時的な楽しみを幸福と取り違え、そのとりこになっていることでしょうか。いかに多くの男女が、金銭という幻想に夢中になりながら生活していることでしょうか。その幻想は実際、人々を利益やわずかなもうけの奴隷にするだけです。自分自身に満足していると思いつつも、孤独に支配されている人がどれほどいることでしょうか。

偽預言者は「詐欺師」にもなります。彼らは苦しみに対して簡単で手短な解決策を示しますが、それらはまったく役に立ちません。どれほど多くの若者が麻薬、「用が済めば切り捨てる」人間関係、安易だが不正な利益といった誤った治療を施されていることでしょうか。また、まったくバーチャルな生活にとらわれている人々がどれほどいることでしょうか。そこでの結びつきは、非常に容易で迅速であるかのように思えますが、まったく無意味であることがのちに判明します。これらの詐欺師は価値のないものを与え、その代わりに尊厳、自由、愛する力といったもっとも大切なものを奪います。思い上がりという錯覚により、わたしたちはうぬぼれ屋になり……愚かな状態に陥ります。そして、その状態からのちに自分自身を取り戻すこともありません。これは驚くべきことではありません。「偽り者であり、その父」(ヨハネ 8・44)である悪魔はずっと昔から、人間の心を混乱させるために、悪いものを良いものとして、偽りのものを真のものとして示してきたからです。したがってわたしたちは、自分がこの偽預言者の嘘にだまされていないか、自らの心を各自で識別し、見極めるよう求められています。その場限りの表面的なレベルにとどまらずに、心にいつまでも残るよいしるしを見分けるすべを学ばなければなりません。それらは神がくださるものであり、わたしたちの幸福にとって真に価値あるものだからです。

冷えた心

ダンテ・アリギエリは、地獄に関する記述の中で、氷の玉座に座った悪魔の姿を描いています。悪魔は、愛のない氷の家に住んでいます。ここで自分自身に問いかけましょう。わたしたちの中で愛はどのように冷えていくのでしょうか。心の中から愛が消えてしまう危険を表す兆候は、どのようなものでしょうか。

「すべての悪の根」（一テモテ 6・10）である金銭欲は、何よりもまして愛を弱めます。そして人は神を拒むようになり、そのために神のうちに慰めを求めることを拒絶し、みことばや秘跡による慰めよりも孤立した状態を好むようになります。こうしたすべてのことは、胎児、病気を患う高齢者、移動者、外国人、さらには自分の期待にそぐわない隣人といった、自分にとって「確かなもの」を脅かすように思われる人に対する暴力を引き起こします。

被造物もまた、このように愛が冷えることを静かにあかしています。地球は無関心と利益追求のために捨てられた廃棄物によって汚染されています。海も汚染されています。不幸なことに海は、移住を強いられ難破した多くの人の遺体を覆わなければなりません。神の計画のもとに神の栄光を称える天空にも、死の道具を降らす兵器の筋が残されています。

わたしたちの共同体の中でも愛は冷えています。使徒的勧告『福音の喜び』の中で、わたしはこの愛の欠如のもっとも顕著なしるしを描こうとしました。それらは怠惰な利己主義、実りをもたらさない悲観主義、孤立願望、互いに争い続けたいという欲望、表面的なものにしか関心をもたない世間一般の考え方などです。こうして、宣教的な情熱は失われていきます。

何をすべきか

たとえ、これまで述べてきたしるしをわたしたちが自分自身の内面や周囲に見つけたとしても、母であり師である教会は、この四旬節の間、祈りと施しと断食という美味な薬を、時には苦い真理の薬と一緒に与えてくれます。

「祈る」ために長い時間を費やすことにより、わたしたちの心は自分自身をあざむく隠れた嘘を暴き、神の慰めを最終的に探し求めます。神はわたしたちの父であり、わたしたちが生きることを望んでおられるのです。

「施し」は、わたしたちを欲深さから解放し、隣人が自分の兄弟姉妹であることに気づかせてくれます。自分のものは、自分だけのものではないのです。施しがすべての人の真のライフスタイルになったらどんなによいでしょう。わたしたちキリスト者が使徒の模範に従い、自分のものを他者と分け合うことの内に、教会に息づいている交わりの具体的なあかしを感じ取ることができたらどんなによいでしょう。この点についてわたしは、聖パウロがエルサレムの信徒のために献金するよう、コリントの信徒を促したときのことばを繰り返します。「それがあなたがたの益になるからです」（二コリント 8・10）。このことばは、多くの団体が教会や困窮している人々のために献金を集める期間である四旬節にとりわけ当てはまります。また日々人間関係の中でも、助けを求める兄弟姉妹を前にして、その人を神の摂理からの呼びかけとして受け止めることができたらどんなによいでしょう。一つひとつの施しは、ご自分の子どもに対する神の摂理にあずかる機会です。もし今日、誰かを助けるために神がわたしをお使いになるなら、明日にはわたしが必要としているものも与えてくださるかもしれません。神ほど惜しみなく与えるかたはいないのです。

最後に断食は、わたしたちの中にある暴力を鎮め、武装を解かせるものであり、わたしたちの成長にとって重要な機会です。断食は、必要最低限のものさえ不足する状態や、空腹に見舞われる日々の苦しみを体験させてくれますが、その一方で善意に飢え、神のいのちを渴望している、わたしたちの霊的状态も表しています。断食はわたしたちを目覚めさせ、神と隣人にさらに心を向けるよう促し、神に従う意欲を燃え上がらせます。神はわたしたちの飢えを満たす唯一のかたなのです。

わたしは、心を開いて神に耳を傾けようとしている善意あふれる皆さんに、カトリック教会の垣根を越えてわたしの声を届けたいと思います。もし皆さんが、わたしたちのように、この世に不正がはびこっていることに心を痛め、人々の心と行いを麻痺させる冷淡さに懸念を抱き、共通の人間

家族の一員であるという意識が弱まっていると感じているなら、わたしたちと一緒に神に祈り、ともに断食し、兄弟姉妹を助けるために自分にできることを行いましょう。

復活祭の炎

とりわけ信者の皆さんにお願いします。施しと断食と祈りによって力づけられ、熱意をもって四旬節の歩みを進めてください。たとえ多くの人々の心から愛が消えそうになっても、神の心がそうなることは決してありません。神は、わたしたちが再び愛し始められるように、新たなチャンスをつねに与えてくださいます。

今年も、恵み深い機会として「主にささげる 24 時間」という取り組みを行います。その際には、聖体礼拝においてゆるしの秘跡を受けることが望まれます。2018 年には、「ゆるしはあなたのもとにあり」という詩編 130 編 4 節の中のことばに導かれながら、3 月 9 日金曜日から 10 日土曜日までこの取り組みを行います。各教区の中で、少なくとも一つの教会は 24 時間ずっと扉を開き続け、聖体礼拝とゆるしの秘跡を行う機会を提供します。

復活徹夜祭に、わたしたちは再び復活のろうそくをともし、感動的な光の祭儀を行います。この「新しい炎」から生じる光は、暗闇を少しずつ消し去り、この典礼に集まった人々を照らします。「輝かしく復活したキリストの光が、心のやみを照らしますように」。そして、わたしたち全員が、エマオの弟子たちの体験を再び味わうことができますように。みことばに耳を傾け、聖体によって育まれ、わたしたちの心が信仰と希望と愛によって再び燃え立ちますように。

わたしは心から皆さんを祝福し、皆さんのために祈ります。どうか忘れずに、わたしのために祈ってください。

バチカンにて
2017 年 11 月 1 日 諸聖人の祭日
フランシスコ

2017 年度 小教区拡大評議会 議事録

日時：2018 年 2 月 3 日 10:00~11:00

参加者：主任司祭、助任司祭、議長団、評議員、地区会役員

1. 主任司祭の挨拶

2. 協議事項

(1) 2018 年度年間行事について



3. 報告事項

- (1) クリスマス関連行事報告 [典礼部]
- (2) 大晦日のカウントダウン、新成人の祝福式・教会新年会報告 [地区会]
- (3) 1 月度神戸地区宣教司牧評議会 (1/7) 報告
- (4) 第 3 回神戸地区大会実行委員会 (1/21) 報告
- (5) 来年度の小教区拡大評議会について
- (6) 新役員の紹介
- (7) その他

2017年度 第6回地区役員会議事録

日時：2018年2月4日

出席者：アルフレド主任司祭、各地区役員

- 1 教会行事報告
 - 1) 主の降誕夜半ミサお茶 (2017/12/24)
 - 2) 神の母マリアミサ後カウントダウン(2017/12/31)
 - 3) 新年会新成人祝福式(2018/01/07)
- 2 教会行事日程と行事担当確認
 - * 地区連絡網配布概略
- 3 2018年度地区役員
- 4 2018年度地区会予算
- 5 掃除当番について
 - 現状実施状況報告と2018年度に向けて
- 6 2018年度地区役員会開催日
- 7 その他

以上

次回地区役員会 (2018年度第1回役員会) 4月15日(日)12:00～

<行事報告>

聖体授与の臨時の奉仕者の集い(2月11日)



初めに参加者一同ミサに与り、神父様からミサとご聖体についてのお話を伺いました。その後グループに分かれての分かち合い、最後にまとめの時間もたれました。その中で、ご聖体をお届けするご高齢者訪問は、大変喜ばれ、却って励まされるというお声がありました。

二千年前のイエス様の御言葉、「これを私の記念として行いなさい。」は、あの最後の晩餐から今日に至るまで受け継がれています。ミサで信徒は、ご聖体を拝領し、各自が主の尊い命と一体となる、そして同時にミサに来られない方々を含めての信仰共同体とも一つになりなさいと望まれる主の御心に思いが巡ります。私達が互いに愛しあうように、ご自分の命を捧げてこのような形で残された大切な御ミサに一奉仕者として、心からの感謝と喜びをもって携わらせて頂きたいと思っています。(沖)

祈りと音楽の集い(2月18日)



2月18日の祈りと音楽の集いは四旬節にふさわしい深い祈りと瞑想に満ちたつどいとなりました。

静かな朗読とコラールを交えたオルガンの奏楽、沈潜した悩みと苦しみを、ひとつひとつ解きほぐしていくかのような曲の進行、いずれの奏者も教会オルガン奏者として素晴らしい音楽性を保ち、ソプラノのコラール唱がオルガンと溶け合って抜群のコラボレーションが醸し出され、聴くものの心に沁み入りました。悩みと苦しみはやがて主の復活で解放されます。

拍手もなければ喝采もない文字通りの「祈りと音楽の集い」。四旬節のさなかに信徒としてどうあるべきかを考えさせられたひとときでした。(那)

地区会からのお願い

教会掃除当番 日曜班募集

日曜日ミサ後に有志で御聖堂掃除を行っています。この日曜班を募集しています。

掃除日は、2か月に1度程度です。

登録していただける方は、教会事務所にお申込み下さい。

日曜班に登録されていない方も、日曜当日に都合がつけばぜひご参加ください。



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

 **小教区評議会**

3月11日(日) 12:00 評議会

 **教会学校**

3月10日(土) 終業式

3月10日(土)～11日(日) 卒業合宿

 **三日月会**

3月19日(月) 14:00 ミサと懇親会

3月17日(土)～18日(日) 錬成会

3月24日(土) 2年生1日錬成会

 **広報部**

3月31日(土) 教会報4月号印刷

 **社会活動部**

4月6日(金) 初金ミサ後 連絡会及び親睦会

《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

3月7日(水) 10時

手芸の集い(第1、第2会議室) どなたでも参加ご自由です。

3月10日(土) 10時

炊き出し(イグナチオホール台所)

小野浜グランドにて、おじさん達のお話し相手や、配食だけでもOKです。

3月15日(木)9時30分

ともしび会(イグナチオホール台所) 施設の子どもたちへのケーキ作り

3月18日(日)10時ミサ後

ふれあい広場(イグナチオホール)



六甲教会受付休み

2018年3月21日(水) 春分の日

司祭叙階式

3月21日（水・祝）14:00
大阪カテドラル（聖マリア大聖堂）

エリック・パウチスタ・デ・グズマン助祭 及び 上田憲助祭

上記お二人の助祭が司祭叙階されることが決定致されました。これにより、大阪教区の神学生はいなくなります。今年中に次の神学生候補（2名）が神学生になられても、そのお二人が助祭に叙階されるのは最短でも4年、司祭になるには更に2年かかり、6年後になります。

神戸地区一粒会を通じ、前田大司教様から、こういう機会はずばらないので是非とも沢山の信者の方々に参加して頂きたい、特に多くの子供たちには是非とも参加して見てもらいたい、と呼びかけがありました。みなさま、ご参列どうぞよろしくお願い致します。

中西



みんなの広場

神戸大学留学センターからの御礼と共に

毎年、春と秋に神大に留学して来る新入生の御世話に当る Truss と云う学生ボランティアのグループがあるのですが、今年になって代表の金原さん、及び、Truss 顧問の黒田先生より留学生向けバザーの今後の方針についてのメールを受け取りました。



それによると、これ迄近隣の皆様に多大なる協力を頂き物品を提供して頂いて実施して来た留学生のバザーを昨今の留学生のニーズの変化や、その他諸事情により活動内容の見直しを行い、2018年度4月より退寮する留学生からのみ、物品を譲り受け、新入生に譲渡する形式を取る事となった事と、長年にわたり理解とその協力に対する御礼が述べられて居りました。

これ迄、教会を通じて、多くの方々から、御家庭内の物品のご提供を頂き、又、昨年教会でのバザーでも、一人暮らしを始める留学生の為に役に立ちそうな食器など取り置いて下さり、我家で、この春入学して来る人達を待って居り、これがトランク一つでやって来る人達にとってのラストチャンスになるのは残念な気も致しますが、長年に亘り、彼等の為に理解と多大なご協力を頂きました事、改めて心より感謝を申し上げます。有難うございました。（金子）

今年のご復活祭は4月1日、エープリル・フールではないことを覚えておこう。

その前の4日間、水曜日にはカテドラルで聖香油の祝別が行われる。

聖木曜日、「さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。」（ヨハネ1:1～）

聖金曜日、「この上なく愛し抜かれた」愛の現れは、こともあろうに「十字架上の死」という悲惨であった。

聖土曜日。暗黒の人類の歴史が行き着いた「十字架」の悲惨が、「アレルヤ」に変わったことを知る。

復活の主日。暗い影のない心の奥底からの「アレルヤ」。

（三好）

2018年カトリック六甲教会

<四旬節のお知らせ>

3月9日(金)10時 十字架の道行
3月16日(金)10時 十字架の道行
3月23日(金)10時 十字架の道行

中央協議会出版の「十字架の道行」を使用します。

<聖週間の典礼>

3月25日(日)10時 受難の主日 枝の行列を行います。
3月24日(土)19時及び25日(日)7時30分は簡単な入堂で枝の祝別を行います。
(通常ミサ形式)

3月28日(水)11時 受難の水曜日 聖香油ミサ(カテドラル)
3月29日(木)19時 主の晩餐のミサ
最後の晩餐を記念して洗足式を行い、仕え合うことの大切さを教えられます。
聖体安置場でお祈りいたしましょう。

3月30日(金)19時 主の受難の祭儀
キリストの受難と死を思い起こす受難の祭儀、十字架礼拝が行われます。

3月31日(土)19時 復活徹夜祭
死から命へと過ぎ越したキリストを盛大に記念し、洗礼式が行われます。

4月1日(日)7時30分、10時 復活の主日



特に聖なる過ぎ越しの三日間(3月29日~31日)は、教会典礼上の頂点であり、私たちの信仰生活と主の救いの業をあらわす最も大切な祭儀です。私たちの救いのために十字架にかけられたキリストの死と復活を思い、出来るだけ祭儀に参加しましょう。なお、朝7時のミサはありません。

典礼部

教会報4月号の発行は、4月1日(日)です。
原稿は3月18日(日)までに教会受付へご提出
ください。FAX 及びメールでも受付いたします。
(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会
〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21
電 話 078-851-2846
F A X 078-851-9023
発行責任者 アルフレド・セゴビア
編 集 広 報 部